

サウンドドラマ制作 演出と技術

☆ はじめに

10月も後半（執筆時）ですが太平洋の南では海水温が下がらず大型の台風21号が発生しました。地球温暖化は収まりそうにありません。本当にこの問題に世界中で取り組まないといけません。私達に出来ることはなにか？真剣に考えましょう。筆者は根本的にSDGsで取り組む姿勢です。新しい家電製品は確かに省エネ、しかしこの商品を作るための原材料の確保から製品製造までの様々な工程を考えると昭和家電の修理と継続使用の方がひょっとするとなどと考えてしまいます。自動車も同様？とにかく考えてみるのが大切と日々暮らしています。読者皆様も是非本来のSDGs考えてみてください。本誌でもSDGs特集しています。さて今回のスタジオ夜話、サウンドドラマ制作の続きです。より具体的にお話します。お付き合いのほどよろしくお願ひいたします。

☆ 具体的制作技法のその前に（キモのつづきⅡ）

前回このキモになるお話をしました。今回もこの「キモのつづき」からはじめます。サウンドドラマ制作ですがこれまで制作者側のお話や聴取者側のお話を色々してきました。筆者が強くいいたいのは例えば制作者側で言えば、超高級スタジオ機材で創る作品と安価なスタジオ機材で創る作品の違いはどこにあるのか？・・・ありません！要（キモ）は創意工夫と手間暇かけた作品は素晴らしく機材の差では無いと断言できることです。同様に聴取者側でも同じことが言えます。ましてやヘッドホン聴取が主流となっている今日。高級オーディオの方が良いというのはナンセンスそのものです。音楽を楽しむ、サウンドドラマを楽しむこ

とに機材の優劣は2次的な要因です。確かに良い？機材を利用することは否定しません。しかしそれは作品を創造鑑賞することの本質とは別のところにあるものです。いまだにここで論議しているじー（若者にもいる）や評論家の存在に驚かされています。本誌読者の皆様には十分に理解されていますがここでもう一度つぶやいてみました。前号をもう一度読み返していただければ幸いです。

☆ 具体的制作技法（聴取条件…Ⅱ）

前回でもお話ししました。サウンドドラマはながら聴取には向きません。ストーリーの展開やその運びに張られた伏線、音に託された様々なドラマの内容などながら聴取には向かない要素が多数あるからです。つまり音自体も含め内容の確かな理解が必要だということです。忙しい今日この聴取時間を確保することはなかなか困難です。サウンドドラマが聴取されなくなっている現状は手間暇かけて創ってもこうした理由で聴取してもらえないことが原因となっていることもあります。また手間暇は制作費の高騰にもつながります。結果手間暇かけず安易な制作物となり益々聴取者離れに繋がっているのです。人気のある声優の起用は（筆者はアニメ化と言う）サウンドドラマの本質を損なうことにつながります。かつてジョージルーカスやスピルバーグは映画のヒットは有名俳優の起用とは関係なくそのストーリーの面白さと実制作（演出、撮影、編集等々）での創意工夫が重要だと述べていました。サウンドドラマの質を落とさないストーリーの面白さと実制作（演出、録音、編集等々）が重要です。聴取環境は通勤電車の文庫本がスマホで読めるようになった現在、サウンドドラマも非常に優れた聴取が可能になっています。スマ

フォ歩行は事故につながりますが通勤しながらは歓迎です。またヘッドホン聴取での「没入感」はサウンドドラマ聴取には最適です。お休み前のひと時も最適、質の良いサウンドドラマ聴取層を掘り起こし再びは無理でしょうか？期待したいのですが・・・。

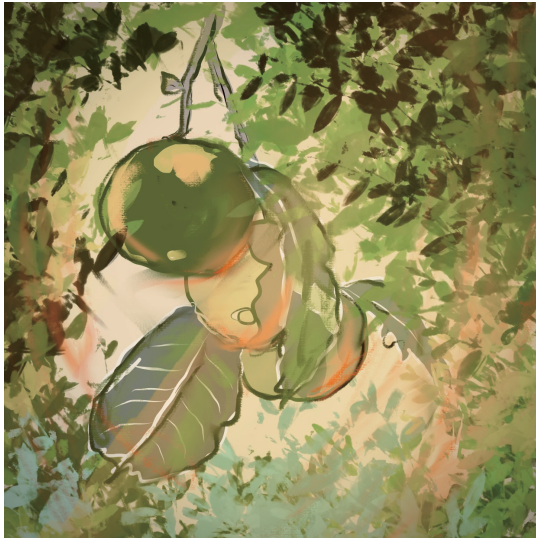
☆ 具体的制作技法 10（具体例）

前回の予告ではスピーカー出しによる素材音の収録としていましたが、今回は全方位での制作全般の具体例のお話をします。またこれはヘッドホン聴取を前提にお話するものです。具体例のお話は長年使用してきた参考台本を使います。この台本は筆者が勤務していた大学で40年以上使っていたものです。作者は橋本孝良（当時教授）で時代劇、酒呑童子のお話です。この台本は様々な制作上のアレンジができる非常に優れた教材です。本誌でもこの台本を使ったサラウンドでの効果音素材収録ロケの記事を掲載しました。（2013年/08月号～2013/10）モノラルから全方位まで応用できる教材台本です。現在は本誌でもご協力頂いている茅原良平（日大芸術放送学科学教授）先生が様々なアレンジして教材として利用しています。筆者も民放局で制作セミナーなどに利用しています。今回ここではそのオープニングシーンを参考に全方位での具体例のお話です。

「全方位サウンドドラマで表現する空間」

ドラマ内容の意味的空間、例えば登場人物が思い出を振り返るなどの意味的あるいは説明的等々の空間がありますが、今回お話しする表現する空間はそうしたものではありません。実際の？に制作表現する空間のことです。（ヘッドホン聴取が前提）こうした表現できる空間は4空間あります。

①頭内定位するモノラルで収録された音が



10月も後半になると、スーパーの店先に緑色にやや赤みが刺したみかんが並び、もうこんな季節かと思ひ、敷地内にあるみかんの木をみに行くと緑色はしているものの大きさは十分なみかんの実がタワフに実が成っていた。もう少しで食べられそう。(maru)

配置され表現する空間。

②頭内定位するステレオ収録された音が配置され表現する空間。

③全方位で頭外定位するモノラル収録された音が配置され表現する空間。

④全方位で頭外定位するステレオ以上のマルチ収録音が配置され表現する空間。

の4空間です。

全方位での制作はこの4空間の表現手法で成り立っています。収録機材的には現行の機材に加えダミーヘッドマイクロフォンは必須です。ドルビーやソニー 360 などの全方位エンコーダーも必要となります。またフォロフォンなどのサラウンドマイクロフォンもあれば非常に便利です。

通常のアステレオサウンドドラマ制作で使った慣れた MS 方式のアステレオマイクロフォンも便利に使用できる機材です。それでは具体例をお話します。具体例はこのドラマのオープニングシーンです。

「オープニングシーン」

シュチエーション設定は悪夢にうなされる主人公の一人「藤原の道綱」のうなされる様子から入ります。背景の音は重低音の混沌とした音？例えばコントラバス + 低い唸り声をスローに可変速した感じなどがベースになります。

効果音としてゆっくりとした馬のひずめ

の音が一頭行き交う。象徴的に木鉦（もくしょう）音などを使い和的なイメージを演出主人公を取り囲み恨めしく呪う抽象的な鬼たちの呪う声がかさねる。そのうちに馬のひずめのおとが遠くで止まりやがて勢いを増し急速に接近してきます。

恨めしい鬼の台詞が一つ大きくと同時に象徴的な抜刀の音、切る！！主人公目が覚める。台詞テーマ M が入ってタイトルとオープニングの語りというものです。台本には鬼たちの呪いの台詞が参考程度、「不気味な笑い」「苦しめ！」「もっと苦しめ！！」「思い知れ我ら鬼族の執念を！！」等々、時代や政治に苦しめられた民衆の言葉？

効果音には馬のひずめと抜刀、鋭く切る音。音楽の指定は無く背景音として重圧感のあるうなされる背景音の希望のみ記載テーマ音楽は指定されていて語りとセットになっています。オリジナルです。このシーンを全方位で構成してゆきます。

「構成」

ゆっくりと静かに混沌とした背景音がフェードインしてきます。筆者はサラウンド制作の際にエンコーダーを使い 5.1Ch に順次広げてフェードインさせました。音源は低いうなり声をアナログ 6mm に収録して超スロー再生にデジタルリバーブでフィードバックをかけながら残響成分の方

をメインに使い背景音としました。全方位エンコーダーを使い 360° 下方方向と全方位に不安定にエンコードすると好いでしょう。絶えず中心音が無いように音源のは位置位置を移動させるのがポイントです。

「藤原の道綱」のうなされる様子はモノラル収録してうなり声や息使いを収録。頭内定位中央に配置。この時「道綱」は鬼たちの呪い声に反応してうなされるわけですから出来れば鬼たちの台詞と同時にモニターしながら収録できればさらに良い結果となります。

「鬼たちの呪いの声」スタジオ内にダミーヘッドマイクロフォンを設置してその周りでマイクロフォン（道綱）に対して動きながら遠近も付けながら様々な台詞をかけます。その台詞をモニターしながら「道綱」のうなされです。鬼たち役者さん達には高度なマイクロフォンワークが必要です。事前にテストをしながら本番に臨みます。収録ではリバーブなどの設定も同時に行います。後処理ではなく完パケを目指します。いざという時のためマルチ収録しますが基本 2Ch の完パケ収録が目標です。続きは次号

☆ 次回は

今回の続きです。引き続き図解も加えさらに具体的に申し上げます。また併せて制作使用素材収録の方法と実際についても必要なミキシング技法などのお話を丁寧にします。制作のキモです。お楽しみに 季節の大きな変わり目です。読者皆様健康でありますようお祈り申し上げます。次回もよろしく申し上げます。

— 森田 雅行 —